

「学校を地域にひらく3(「させる生徒指導」から「支える生徒指導」へ)」

皆様は「生徒指導」というと、どのような印象をお持ちでしょうか。生徒が非行的にならないように監視するというイメージでしょうか。ブラック校則に象徴されるように強制するというイメージでしょうか。これらは、数十年前に校内暴力等で学校が荒れた際の生徒指導の印象だと思えます。



これまで、学習指導要領の改訂にともなって学校は変化が求められていることをお伝えしてきました。そんな中、文部科学省が昨年末に「生徒指導提要」を、12年ぶりに改訂しました。この「生徒指導提要」は、生徒指導の理論や実際の指導方法等について、時代の変化に即し、生徒指導を実践する際に、共通理解を図り組織的な取組を進められるよう、教員向けの基本書として作成されたものです。

今回の改訂で、「生徒指導は社会の中で自分らしく生きることができる存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える意図でなされる教職員の働きかけ」と定義が示されました。「支える」という表現のとおり、生徒指導は「支援」として行われるべきと変更されました。つまり、学校の役割も、子どもたちを成長「させる」のではなく、子どもたちが自ら成長していこうとする存在であることを信頼し、その成長の道筋を「支える」役割になることが求められています。

このような動きにともない、本校でも生徒指導の見直しを徐々に進めていきたいと考えています。具体的には、「校則」について検討したいと思っています。本校の校則も、「させる」という考えで作られたものなので、「支える」という発想で見直していきたいと考えています。

先日行った生徒の学校評価アンケートにおいて、「登下校時の服装」や「自分たちの生活」などの校則について多くの記述意見が出ていました。そこで、生徒会役員の生徒と職員が対話する機会を設けたところ、意外なことにそれらの意見を否定

する意見が出ていました。安心すると同時に「あれ」と思いました。校則は絶対と思っている生徒もいるように感じたからです。「なぜこの校則があるのか」「本当に必要なきまりは何か」と考える力が不足しているのかもしれないと推測しました。だからこそ、「校則」などを生徒とともに見直すことを通して、生徒が主体となって自律的に成長していける学校にしていきたいと考えています。

さらに、これからの予測困難な社会においても、生徒一人一人が、社会の変化に対して主体的に関わり、自らの可能性を發揮し、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓いていくのに必要な力を、学校だけでなく、保護者や地域の皆様とともに育てていきたいと考えています。



令和4年度 3月行事予定表

日	曜	行事等
1	水	学級専門委員会
2	木	学校朝会
3	金	人権アンケート(1・2年) 1・2年帰りの会+15分
4	土	
5	日	
6	月	卒業式予行練習 三送会 3年 最後の給食 強化清掃日(+5分) 卒業式前日準備
7	火	
8	水	卒業証書授与式
9	木	代表委員会3月分
10	金	部長会(新年度説明会にむけて) 清掃強化日(+5分)
11	土	
12	日	
13	月	昼 清掃班長会議(掃除用具の調査・点検) 清掃強化日(+5分) 放課後部活動なし
14	火	朝床磨き ALT授業
15	水	

日	曜	行事等
16	木	生徒会結団式・球技大会
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	学活 春休みの生活について 給食最後
21	火	春分の日
22	水	部活動がある生徒は弁当 大掃除
23	木	部活動がある生徒は弁当
24	金	修了式・離任式 学活 3学期のまとめ 部活なし
25	土	
26	日	
27	月	学年末休業
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	





発行者  
清川村立緑中学校  
清川村煤ヶ谷1933  
046-288-1241

令和5年3月号

## 1年間を振り返って

コロナ生活も3年目を迎え、「withコロナ」の生活様式も定着してきましたが、生徒はコロナ禍であっても毎日充実した表情で生活していました。学校は感染症対策を行いながら実施方法や時間などを工夫し、教育活動を進めてきました。また、同時に「何のためにやっているか」など「目的」から考え直すよい機会になったと考えています。

今年度を振り返ると、生徒の「学習評価」について新たな試みを始めましたが、それが思わぬ方向に波及して、新たな発見に繋がった1年だったと感じています。具体的には、生徒やPTA、学校運営協議会の方との対話集会を行ったことです。学校がよいと思っていることでも、生徒や保護者の立場で見ると違った見方になっていました。特に「学習評価」と「高校入試」は切実な問題で、お互いにその思いを理解し合って、合意していくことが大切だと実感しました。対話集会で有意義な意見をたくさん伺い、次年度の計画を作成する際に大いに役に立ちました。



その他では、感染状況が好転したことにより、コミュニティスクールの活動で学校に地域の方に来ていただく機会を作れたことが挙げられます。「村の歴史講話」「校内への造花の展示」「小学校・幼稚園生との交流」など、コロナ禍で控えていた活動を復活できたことが大きな成果でした。

あとは、「生徒の成長」です。桜が咲いていた頃の生徒のあどけない表情が、1年経った今では、どの生徒もとても充実し、自信に満ち溢れた表情へと変化していることです。



## 学びづくり校内研究会

2月8日(水)「学びづくり校内研」で英語の授業研究を実施しました。「知識構成型ジグソー法」という手法を用いて、1人では解決出来ない課題に、3人組で協働して、知識を増やしながら、課題を解決する学習に取り組んでいました。

「フィンランドの人は、どういう生活をしているのか」というテーマで、フィンランドの特徴についてそれぞれの班で調べてまとめました。どの班も3人の知識とiPadを活用しながら、フィンランドの気候や文化、行事について調べ、英文にしていました。難しい英文を、自分たちの言葉で分かりやすくまとめている班もありました。



## PTA運営委員会

2月20日(月)、PTA本部役員と各委員会の保護者の皆さまにお集まりいただき、PTA運営委員会を行いました。今回が最終回で、1年の反省と来年度の計画について検討しました。「例年のとおりに」ではなく、無理なくPTA活動が行えるようにという視点で、一つ一つの活動について見直しました。

今回出された意見を、来年度の新役員の方にしっかりと引継ぎ、保護者と生徒と学校とを潤滑につなぐPTAの活動を、多くの人に支えていただきながら運営ができるようにしていきたいと考えています。

お忙しい中、熱心にお話し合いいただきありがとうございました。



## 3年進路決定・卒業へ向けて

3年生の「進路決定」というと、思春期の生徒たちが思うように力を発揮できなかったり、過ぎていく時間に焦りを感じたり、ストレスと戦い続けるイメージがあるかもしれません。しかし、それは今後生きていく上で、学ぶべきものを必死に学び取ろうとする姿でもあります。

ところが、そんなイメージに反し、進路決定に向けての活動が進んでいくにつれ、3年生の表情は、とても明るく、むしろ周囲の人に対する気配りが増えていました。

自分について真剣に考え、他人もそうであることを知っているからこそ見られる生徒の笑顔。まるで、「一緒に乗り切っていこう!」と互いを励ましている笑顔のように目に映ります。進路決定後に「お疲れさま」「やったね」「楽しみだね」と色々な方から声をかけられる場面は多くなると思いますが、是非、進路決定前の一番輝いている姿や、複雑で多くの感情を秘めてなお、温かい表情で生活を送っている今頑張っている姿を、地域の皆様にも応援していただきたいと思っています。

頑張れ3年生!



## 2/22(水)1・2年生 実力試験を実施しました

今回の実力試験では、自分の実力がどのくらい身につけているのかを確認し、今後の自分自身の学習に活かし、学力向上につなげることと、高校入試を見据え、一日5教科の試験を受けることに慣れることの2つをねらいに実施しました。

生徒は、朝の自習の時間にも緊張した表情で準備をし、集中して実力試験に望んでいました。

